



## VEC関西支部長が交代いたしました。



今年は新型コロナの影響により、皆様におかれましては予想外の変化を生じておられる事と存じます。VEC関西支部も感染防止のために3月以降交流会を開催できず申し訳ございません。この状況が早く収束して通常業務に戻れることを祈っております。

さて、この度は前支部長の本田英行が円満退任し後任に山脇雅則が就任致しましたので両氏からと京都女子大学 西尾久美子教授からメッセージを頂きました。今後ともよろしく願い申し上げます。

- ◆長年に亘りベンチャーを応援し、9月30日に退任の前支部長 本田英行氏からメッセージです。  
これからも世の為、人の為に尽力されることを期待します。

～VECとの縁を振り返って～



2025年 大阪・関西万博 会場イメージ

今年はVEC創立45周年を迎えました。早いものです。

私も支部長時代を含め少なくとも20年位は関わって参りました。

まだ、研究開発型企業育成センターの名を頂戴して間もない頃だったと思います。

当時私も父が創業した建材の販売会社の専務で大阪にいました。関西の中小企業経営者が何名かで新しいビジネスを提案しようと8名から10名位で勉強会をしておられました。

(未だベンチャービジネスの名前がない頃)私も仲間に参加させていただきました。

まずびっくりしたのが、ユニークな経営者ばかりで勉強会よりも飲み会がメインのような集まりでした。

当時、音頭を取っておられたのが日本高分子化学研究所 百々社長とおっしゃり有名?な方でした。その時、会に出席していたのが柳野特許の柳野先生や、ガス取扱業の榊屋社長さん達でした。私も技術出身の経営者でありながら板ガラスの間屋で技術系の商品のメーカーを志向しており出席しておりました。

当時VECでは研究開発型企業に研究開発費の債務保証は私の記憶では確か最大1億円くらいだったと思います。

私は風速計のセンサーの開発費6000万円を申し込みました。

当時、本田宗一郎氏がその審査委員長で審査委員は牧野昇氏、堀場製作所 堀場社長、経営コンサルタントの小林社長の方々でした。

みなさん、センサー素子と言ってもよく分からなかったようで、センサーの検定等どうしてやるんだ?との質問でした。私は風洞の設計の話から延々と話そうと思っていたのですが、本田宗一郎氏が「この人は(私のこと)一生懸命やないか、やらしてあげようやないか・・・」

その一言で審査はパスしました。審査はパスしましたがそれからが大変、風速計として販売できるまで、6年の年月がかかってしまいました。

現在風速計は別会社「トーニック株式会社」として活動しております。

この度は関西支部長を無事退任する事が出来ましたが、これも皆様のお陰と感謝しております。

VECはこれからも変化を先取りしたサポートと、さらなるご発展をお祈り致します。

有難うございました。

前支部長 本田 英行



◆ 10月1日からVEC関西支部長に就任の山脇雅則(株式会社ヤマキテク/代表取締役)氏から抱負等のメッセージです。引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



Q: VEC関西支部長にご就任の抱負をお願い致します。

長年にわたり活躍された本田支部長のあとを受けて、支部長に就任させていただいた山脇雅則と申します。今後のVECについてご挨拶させていただきます。時代の変遷からしますと、これからは人口の減少が進みます。人も企業も減少傾向に向かいますが、反対に新しく企業の誕生やビジネス形態も今までとは異なるタイプのものが登場すると考えられます。私たちは、そういう情報を早く取得し考えを改めて次の時代に適合したものにしなくてはなりません。今後の講演者およびメンバーが、今まで以上に情報取得に有益であると思われるように皆様とともに努力していきますのでよろしくお願いいたします。

Q: これからはテレワーク等オンライン業務の促進も言われていますが、どのようにお考えですか。

新型コロナウイルスの進み具合と回復度合いによりますが、今年10、11、12月ぐらいにある程度方向が分かってくるのではないかと思います。新ワクチンが普及するまで、現状でやるしかないでしょう。特に来客を主体とする飲食業、小売業などは来客を増やさねばなりません。一般企業はテレワークを活用することで、出勤せずに効率を高めること、逆にマイナス面もありで仕事と健康面など陰と陽のように、テーマが二律相反する構図となっています。しばらく、現状を見ながら方向をはっきりさせましょう。

Q: 起業する方やベンチャーに期待されることは何でありますか。

新型コロナウイルスのため、倒産や廃業が多いと聞きます。どういった企業が多いのか。小企業ばかりではない。その問題をクリアした起業、ベンチャーが永続するでしょう。その点を支援するべきであるし、また育成も大事になってきます。現在は成長社会から成熟社会に変化しており、情報が多すぎてポイントが絞りにくくなっており、何がうまくいくのか見通しにくくなっており研究段階からよほど吟味しないと不安定でなりません。そういった勉強のあり方を教えていただきたいです。

★ 多方面でご活躍中の京都女子大学 現代社会学部 西尾久美子教授から本田前支部長とVECへメッセージを頂きました。これからも大学や京都の情報を期待します。

※本田前支部長に贈るメッセージ

本田英行前支部長に初めてお目にかかったのは、上七軒の路地の奥の串カツ屋さん(知る人ぞ知るといったお店です)でした。元芸妓さんの女将から「花街にお詳しい方です、いろいろお話を聞かせてもらはったら?」と、ご紹介された上品な雰囲気紳士が、お店のカウンター越しにニコリと微笑まれたことを、今でもはっきり覚えています。

小唄など伝統芸技に明るく京都や大阪の花街にも足を運ばれる本田様から、その経験があってこそその花街に関するお話を折に触れてお伺いできたことは、駆け出しの研究者にとって大きな財産となり、その後の研究につながりました。お伺いしたたくさんのお話の中から代表的なエピソードをご紹介して、本田前支部長へ送るメッセージといたします。

「芋虫から蝶へ」。舞妓さんが経験を重ね、技能を磨き、そして芸妓さんへと育っていくプロセスを、こんな言葉に例えられました。そして、「本当に予想もできないほど、変わるなあ」と育成される側の可能性に触れるごく自然な感想も聞かせていただきました。

確かに、舞妓さんを目指して努力する愛らしいが少しあか抜けない少女たち、宴会や踊りの会などに追われて必死の様子舞妓さんたち、そんな彼女たちは数年たつと、誰もが洗練された美しい所作の艶やかな雰囲気の芸妓さんになっていきます。どのように変化するか予測がつかない若手人材が大切に育成され、機会を与えられてさらに磨かれて、その積み重ねの結果が、ある時期に大きく開花するという花街の人材育成の特色を、本田様はたった一言で集約されました。

さて、それから10年余りの月日がたち、本田様とのご縁からVEC関西支部の皆様とも親しくさせていただく機会を得ております。そして、本田前支部長はじめ皆様のご活動のご様子から、ベンチャー経営者の努力と周囲のサポート、また大きな跳躍を阻む壁とそれを乗り越える支援の仕組みがあることを教えていただきました。

芋虫から蝶になり、さらに、顧客と良い関係性を築き飛ばたくように育成する花街の人材育成の仕組みと、ベンチャー企業の事業展開のプロセスを理解したうえで、それを支え励ますVEC関西支部でのご活動のご様子が重なり、本田様の「芋虫から蝶へ」の言葉に込められた深い意味と、柔和なご様子の中に秘められた鋭い観察力と洞察力に改めて敬服しております。末筆になりましたが、本田様の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたします。また、蝶として羽を広げられるVEC関西支部の皆様益々のご発展もお祈りしております。

Q: 新型コロナによる京都や大学の変化はどのようですか

京都五花街のお茶屋さんは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月から5月まで営業自粛をされておりました。6月からは再開されましたが、「お座敷」には呼ばれる機会は減ったと芸舞妓さんたちから聞いています。また、春や秋の踊りの会も今年は中止となり、芸技を発表する機会が失われ、新人や若手の今後のキャリア形成への影響があるのではと気にしています。ほとんどの大学では前期はオンラインを活用した授業で、学生の学びの機会を確保しました。短期間の準備で授業資料を変更し、動画の撮影や編集にバタバタと対応に追われ、長時間のリモート授業とその後の多量の動画処理というのが大学教員のリモートワークの特色だと痛感しています。なお、その結果、腰痛と目の疲れに悩まされました。

Q: 企業や支援機関に何を期待されますか

新型コロナウイルスの影響で学費や生活費に困っている学生さんがいます。また、アルバイトの機会も減っています。奨学金あるいは有償のインターンシップなど、支援を考えていただけるとうれしいです。

<VEC関西支部 事務局だより>

- ・この度支部長が交代致しましたが体制は変わりませんので引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。
- ・今後の講演会・交流会は新型コロナの状況を見て計画したいと存じます。再開時期はご参加の方々が講演会後に情報交換できる場があることが大切と存じますのでご理解の程お願い致します。
- ・10月1日からのメンバーです。

支部長: 山脇雅則 事務局: 澤村佳宏、藤本睦美、濱本妙子

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部  
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階  
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293  
Eメール kansail@vec.or.jp